



宮古島市役所職員による技術指導

宮古島市は、平成22年度から、サモアが課題とする漏水や雨期の水

② サモア水道公社に対する水道事業運営の支援

沖縄県企業局では、本県の総合的な水資源管理のノウハウを伝えるべく、平成22年度より太平洋の島国の水道事業関係者を受け入れ、市町村の協力も得ながら、県内各地で研修を実施しています。

① 水資源保全管理研修の実施

過去の島サミットで採択された首脳宣言に基づき、さまざまな支援が行われています。現在、JICA沖縄国際センターを通し、県内組織が実施している技術協力などをご紹介します。

太平洋の島国に対する沖縄県の協力など

平成23年、沖縄県経営者協会は、JICA沖縄及び宮古島市の共催を得て、太平洋の島国における分野をはじめとしたビジネス創出

④ 水ビジネス検討会



リサイクルビジネスの確立に向けた協力

那覇市とNPO法人沖縄リサイクル運動市民の会は、平成23年度よりトンガのババウ島に対し、本県のノウハウを活かした持続可能な廃棄物管理を支援し、資源化によるリサイクルビジネスの確立に向けた協力を行っています。

③ ババウ島に対するリサイクルビジネス確立に向けた協力

濁、浄水場の運営管理を軸に、「宮古島モデル」として自らの経験を踏まえた支援協力を行い、同公社の人材育成及び組織力強化を図っています。

第6回 太平洋・島サミット開催

日本と太平洋の島国との交流拠点・沖縄を目指して



太平洋の島国と日本の位置関係(イメージ図)

高校生太平洋・島サミット参加者の声

参加が決定した那覇西高校国際人文科の篠原真音さん、友利彰裕くん、仲里クリスくんの3人に聞きました。

Q:応募したきっかけは?

篠:海外研修で積極的に取り組むことの大事さを学んだので、高校生島サミットにもチャレンジしてみようと思いました。

友:沖縄、日本について海外の人がどう思っているのか知りたかったからです。

仲:父親が米国人で、世界情勢についてよく話してくれることもあり国際事情に関心があります。また、泡瀬干潟でのボランティア活動を通して、環境への関心を持つようになったからです。

Q:参加者に決まった感想を聞かせてください。

篠:自分の夢に近づくためのチャンスをもたらってうれしいです。

友:同じ学校から3人合格できてうれしいです。会場の宮古島は僕の両親の地元。海的美しさを自慢したいです。

仲:多くの国の人と意見交換ができることがうれしいです。



向かって左から仲里くん、篠原さん、友利くん

当地で3回目の島サミットとなる今回、沖縄県では、県主催行事の開催地に初めて離島の宮古島市を含め、新規に「高校生太平洋・島サミット」を行うことにより、復帰四

第6回太平洋・島サミット ①開催地主催プログラム

島サミットの期間中、開催地では島サミットに出席する各国首脳等を歓迎するため、知事主催の昼食会や地元との交流会などを主催します。

②高校生太平洋・島サミット

5月23日から26日までの4日間、日本人高校生32人と島サミットに参加する太平洋の島国13カ国1地域、オーストラリア、ニュージーランドの高校生32人の計64人が、エコアイランドを掲げる宮古島市にて、環境について学び、意見交換を行います。

成果として、島サミットに参加する各国首脳に提言を行う予定です。また、期間中は地元高校への入学や、ホームステイ体験も予定しています。

●太平洋・島サミット



Q:どの国が参加するの?

A:日本と太平洋の島国13カ国1地域(※)、オーストラリア、ニュージーランド、米国です。米国は、第6回太平洋・島サミットが初参加となります。

※キリバス、クック諸島、サモア独立国、ソロモン諸島、ツバル、トンガ王国、ナウル共和国、バヌアツ共和国、バブアニューギニア独立国、パラオ共和国、フィジー共和国、マーシャル諸島共和国、ミクロネシア連邦、ニウエ

Q:太平洋の島国について教えてください。

A:太平洋の島国は、小さな島々を意味する「ミクロネシア」、黒い島々を意味する「メラネシア」、多くの島々を意味する「ポリネシア」の三地域に区分されます。

ミクロネシア

日本が過去に統治していた歴史的背景もあり、日本の言葉や文化が残り、多くの日系人が活躍しています。

メラネシア

火山島が多く、熱帯雨林が広がっているため、資源に恵まれています。

ポリネシア

航海術に優れた海洋民として知られる一方、音楽や芸能が各地で継承されている地域でもあります。

沖縄県と太平洋の島国の関係

太平洋の島国は、大統領をはじめとした政財界のリーダーも輩出されるほど多数の日系人が存在し、国際社会においても日本の立場を支持してきたなど、日本とのつながりが深い親口国家です。

特に沖縄県とは、同じ「島」であるが故に抱えざるを得ない廃棄物処理や経済的活動における課題のほか、気候・文化面でも多くの共通点を有しています。

本県は、これまで多数の国際会議を誘致していますが、我々と多くの共通点を持つ島国の首脳が一同に会し、関係国と共に直面している課題の解決に向けて話し合う太平洋・島サミット(以下、「島サミット」)は、本県にとって特別な国際会議と言えるでしょう。

5月25日・26日、第6回太平洋・島サミットが沖縄県名護市にて開催されます。太平洋・島サミットは、太平洋の島国が直面しているさまざまな課題について、日本がこれらの国々及び関係国と共に取り組むために主催している首脳会議です。本県では、過去、平成15年に第3回、平成18年に第4回会議が開催されており、開催地になるのは今回で3回目です。

お問い合わせ 県交流推進課 TEL:098-866-2479 FAX:098-866-2765